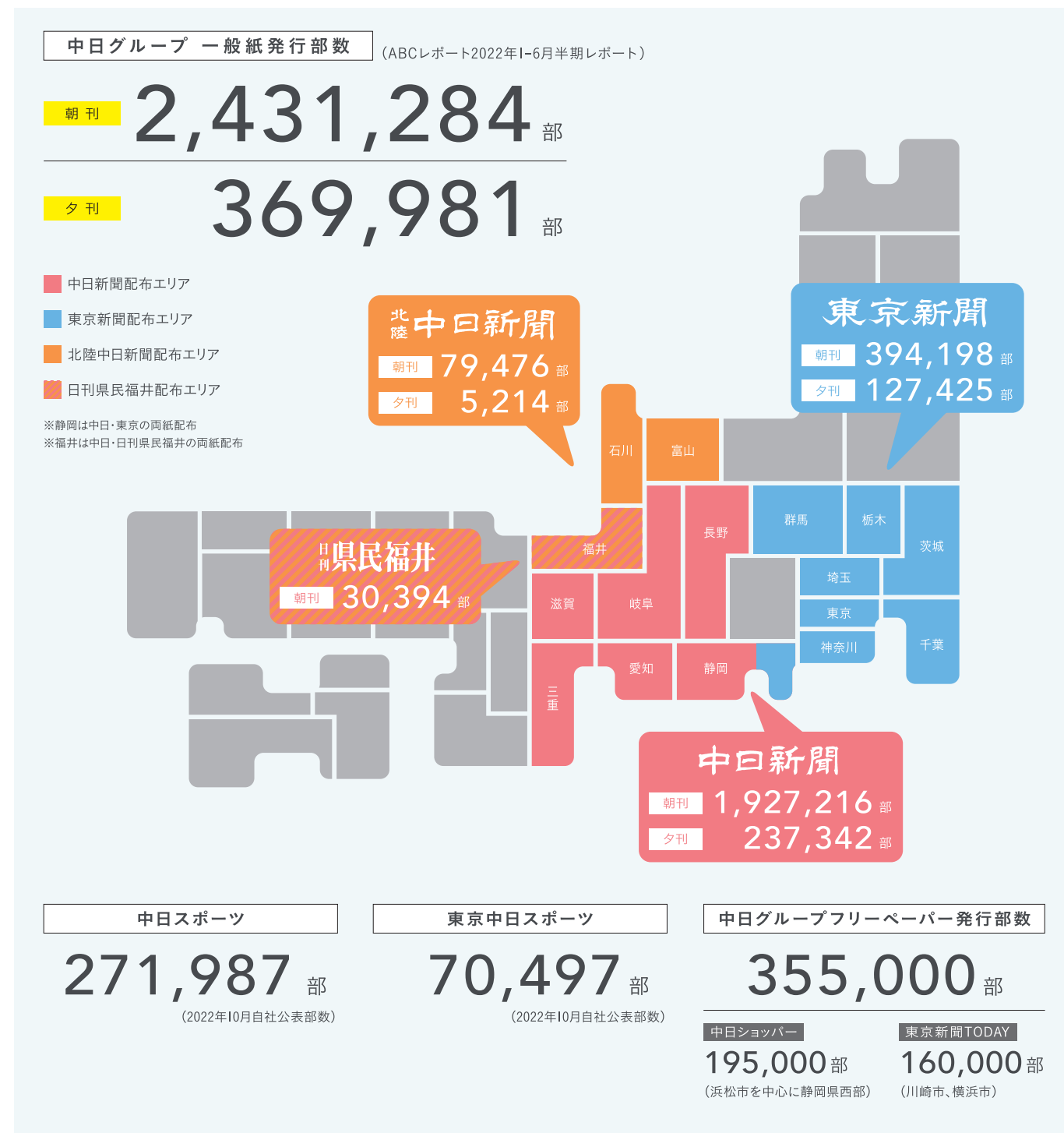




中日新聞社広告局		
名古屋本社	〒460-8511 名古屋市中区三の丸 1-6-1	TEL.052(221)0686
岐阜支社	〒500-8875 岐阜市柳ヶ瀬通 1-12	TEL.058(266)4791
東京本社	〒100-8505 東京都千代田区千代田 2-1-4	TEL.03(6910)2483
北陸本社	〒920-8573 金沢市駅西本町 2-12-30	TEL.076(233)4640
東海本社	〒435-8555 浜松市東区薬新町45	TEL.053(421)9118

福井支社	〒910-0005 福井市大手 3-1-8	TEL.0776(28)8606
大阪営業支社	〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-43	TEL.06(6346)1115
中日ショッパー	〒435-8557 浜松市東区薬新町45 中日新聞東海本社内	TEL.053(421)9115
東京新聞TODAY	〒210-0006 川崎市川崎区砂子 1-1-14 JTBC川崎共同ビル5F	TEL.044(245)5881

中日新聞社広告局ホームページ <https://adv.chunichi.co.jp/>

中日新聞
東京新聞

北陸中日新聞
日刊県民福井
中日スポーツ
東京中日スポーツ
中日こどもウィークリー
中日ショッパー
東京新聞TODAY

観光PRの
メインターゲットである
シニア層にダイレクトに届く

INTERVIEW Mitsufumi Tanaka
田中 三文 氏
愛知県東三河広域観光協議会
マーケティングディレクター

徳川家康

観光PRのメインターゲットであるシニア層にダイレクトに届く

Interview

Mitsufumi Tanaka

田中 三文 氏

愛知県東三河広域観光協議会
マーケティングディレクター

観光・レジャー関連の出版社、シンクタンク上席主任研究員を経て、昨年10月より現職に着任。マーケティング全般に関わり、東三河の観光振興に奔走。愛知大学地域政策学部非常勤講師、旅人総研代表も務める。

Masanori Kato

加藤 雅範

中日新聞 名古屋本社 広告局
広告三部 部長



—— 愛知県東三河地域と岡崎市、浜松市で「家康街道で地域の魅力をつなげるプロジェクト」を発足されました。このプロジェクト発足の経緯をお聞かせください。

田中 家康公ゆかりの地は各所にあり、岡崎は生誕の地として、浜松市は出世をしていった地として、長年、町全体で家康公を盛り上げる取り組みを続けてこられました。その間に挟まれた東三河にも、長篠・設楽原の戦いをはじめとする戦いの地など家康公が活躍した非常に重要な拠点があります。そこで、岡崎から東三河、浜松までをつなげて、このエリアで家康公ゆかりの地をめぐっていただきたいと思い、我々から岡崎市と浜松市にお声がけしてこのプロジェクトが始まりました。

—— プロジェクトとして、具体的にどのような取り組みをされていますか。

田中 このエリアを「三河・遠州 家康街道」と名付け、点ではなく面として一緒にクローズアップされるように盛り上げたいと考えて、観光庁の「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」に応募し、無事に採択されました。この事業の中でPRを展開しようということで、まず「三河・遠州エリア 家康街道ガイドマップ」という冊子を制作しました。また、1月末で終了しましたが、ゆかりの地10カ所をめぐるスタンプラリーも実施。昨年12月には中日新聞に広告掲載も行い、家康街道を知ってもらおうきっかけ作りができたと感じています。

—— 2回にわたって中日新聞に掲載いただいた広告の反響

はいかがでしたか。

田中 先にお話した家康街道ガイドマップは5000部発行したものがあっという間になくなり、再版しました。これには新聞広告の影響があったと感じています。新聞読者は紙媒体や活字慣れしている方たちですので、二次元コードでダウンロードできますと言われても、冊子が欲しいという要望が多い。新聞読者のニーズにつながっていると感じました。また、広告だけでなく三河版や東三河版といった地方版に載せていただいた記事の反響も大きかったです。広告プラス記事でフォローアップしていただくと、「最近この話題をよく見るなぁ」という印象につながり、より効果が出るのかと思っています。広告もその時見て終わりではなく、二次元コードを載せていますので、そこからより詳しい情報を見ていただく副次的な活用につながりますよね。広告掲載は非常に有益なPRになったと思っています。

—— 1月からはNHK大河ドラマ「どうする家康」の放送が始まりました。

田中 大河ドラマが始まると、大河ドラマ館がある岡崎と浜松には何十万人というお客さまが訪れると思いますが、東三河にも重要な場所がありますので一つでも立ち寄っていただきたいです。観光庁の支援は令和4年度の事業ですので3月末で終了しますが、大河ドラマは1年間続きますので、この期間は家康街道を積極的にアピールしていきます。ドラマでこの地域に関連した内容が放送される



中日新聞 2022年12月3日朝刊
家康街道のマップと主な見どころ10カ所の情報を掲載。

と視聴者の方に関心を持っていただける可能性が高いので、WEBなどで情報を調べていただくという反応にも期待したいです。

—— この観光PRによって、地元の方たちにはどんな影響がありそうですか。

田中 家康街道プロジェクトの取り組みによって、歴史的な由緒ある場所が地元がたくさんあることに気づいてもらいたいです。そして、それを市民の誇りとして積極的にPRしていただくような動きにつながれば、さらにありがたいですね。私自身もこの事業を機にあらためて各地を回ってみると、お城や寺社など単体の魅力だけでなく各所のつながりが感じられて、より興味をそそられました。“面”としてこのエリアの時代をさかのぼれることが、家康街道の面白さだと実感しています。

—— 今後はどんな展開を検討されていますか。

田中 家康だけでなく、ほかの戦国武将たちも活躍したエリアであることを東三河の観光ブランドの一つとして継続的に活用していきたいです。東三河だけで完結するのではなく、他の地域とも広域で連携していけるとなおよいですね。

—— 新聞広告や新聞社に関するご意見、ご要望をお聞かせください。

田中 観光PRのメディアとして新聞は欠かせないと感じています。新聞読者層は高齢化していると思いますが、つまりシニア層が一番信頼しているメディアとも言えます



中日新聞 2022年12月23日朝刊
岡崎市、豊橋市、浜松市の市長インタビューを掲載。

よね。家康街道など歴史系の観光PRでは元気なシニアがメインターゲットですので、新聞広告はそこにダイレクトに届いて行動につながられるツールとして役立つはずです。

また、東海地方において中日新聞はあらゆるメディアの中でもっとも影響力があり、市民に浸透している媒体ですので、この地方で中日新聞を活用しない手はないと思っています。中日新聞に広告を掲載したこと自体が我々のプロジェクトの成果の一つで、家康街道を広く知っていただく機会になったと考えています。

—— ありがたい言葉をいただき、感謝いたします。今後ともぜひPRにご活用ください。本日はありがとうございました。



東三河と岡崎市、浜松市が自治体の垣根を越えて発行した三河・遠州エリア「家康街道ガイドマップ」。愛知県三河地域～静岡県遠州地域に多数ある「徳川家康公」にまつわるスポットを7つのテーマで紹介している。

読者が動く

読者を動かす 中日新聞グループのリソース

中日新聞社は地域に密着した情報発信を通して、読者との間に確かな信頼を築いてきました。その信頼は、中日新聞社が持つ様々な機能やサービスにも強く影響を与えています。いずれも新聞広告にプラスαの大きな効果をもたらす地域最強のコンテンツです。ターゲットや目的に応じて、中日新聞社の多彩なコンテンツをご活用ください。

「聞く」から健康を考える 「第1回補聴器 フォーラム東海2022」開催



中日新聞 2022年12月27日朝刊 7段



中日新聞 2021年7月17日朝刊



会場の様子



アイシン株式会社様の協力を仰ぎ、リアルタイム音声認識アプリYYProbeをスライド下部に投影しました。

第1回「補聴器フォーラム東海2022」

【メインテーマ】「難聴者が補聴器を満足して使用するために」

【開催日時】2022年11月27日(日)

【会場】ウインクあいち

【主催】日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 愛知、岐阜、三重県地方部会
愛知、岐阜、三重県耳鼻咽喉科医会
日本補聴器販売協会 東海支部

【後援】日本言語聴覚士協会 愛知、岐阜、三重県士会
日本補聴器工業会
愛知県
名古屋市
【共催】中日新聞社

市民公開講座
400名以上
が応募



愛知岐阜三重を中心とした、医師、言語聴覚士、補聴器技能者、そして市民が集うフォーラム「第1回 補聴器フォーラム東海2022」を、11月27日(日)ウインクあいち(名古屋市)で開催しました。

本フォーラムは、日本赤十字社名古屋第一病院耳鼻咽喉科 柘植勇人先生の、補聴器を巡る現状への啓発の必要性、その想いを受け、一昨年から開催に向けて奔走させていただきました。

開催目的は、「補聴器について適切な情報を提供し、難聴で生活を不自由に行っている方が補聴器を満足して活用できるように導くこと。」その目的のために、フォーラムは4部制とし、東海3県の耳鼻咽喉科医、言語聴覚士、補聴器技能者の講習会、400人の市民講座、別会場にて企業ブース展示・相談会を行いました。

実行委員会の承認のもと、趣旨に賛同いただいた計12社の企業様よりブース・紙面協賛を頂きました。紙面を中心とした告知で市民講座定員400人も定員に。ブースも入場制限がかかるほどで盛況に終わりました。載録では、来られなかった方のためにWEB報告も用意し、当日の模様を伝えました。第2回は2023年11月26日(日)に開催を予定しています。

名古屋本社 広告二部 長津 政宏



中日新聞 2022年9月6日朝刊 告知広告



ホームページはこちらから

【参加者の声】 市民講座参加後のアンケート ※一部抜粋

- 医師、言語聴覚士、企業の方の各々の役割 それぞれの立場からの課題が確認でき、大変勉強になりました。
- とても詳しい内容、具体的な事例、データの裏付けによる説明で、とても勉強になりました。
- 補聴器の大切さ使用方法などわかりやすいフォーラムでした。
- 補聴器に満足されていない方の声をしっかり受けとめて今後の取り組みを説明頂けたので参考になりました。

健康増進のための会員組織

東京新聞ヘルスケアメイツ



東京新聞 2022年12月16日朝刊 15段



「運動プログラム」でフレイル予防

「回想法プログラム」で認知症予防

体力測定コーナー

協賛社 書籍即売会

【読者の声】 イベント終了後のアンケートより ※一部抜粋

- これからは高齢者がすごいスピードで増加する事をふまえ、このようなプログラムはこれからとても必要だと感じました。
- この年代の人々といろいろなことを語り合えて大変良かった。
- 改めて昔のことを思い出し、とても楽しい一時でした。参加して良かったです。ありがとうございました。
- 回想法プログラムで貴重な新聞を拝見でき、生きたお話が聞けて良かったです。
- 徐々に脳が活性化するのを感じた。

高齢化率が年々上昇する日本では、健康寿命の延伸が社会課題となっています。この課題にこたえるべく、健康増進のための会員組織「東京新聞ヘルスケアメイツ」を立ち上げ、スタートイベントを11月27日に東京本社1階ホールで実施しました。

当日は多数の応募から抽選で選ばれた33名が参加し、理学療法士による運動プログラムと作業療法士による新聞を用いた回想法プログラムを体験。参加者の満足度も高く、「運動に関する最新の知識が得られ、介護予防体操を体験できた」「昔の貴重な新聞を見ながら同じ時代を過ごした人と思い出話ができた」といった声があがりました。

イベントにはNHK出版、白寿生科学研究所が協賛し、PRコーナーでの講演や書籍の即売会、製品のサンプリングなどを実施しました。

2023年度には年4回の開催を予定。その後は参加者へ運営に協力いただくボランティアを募りながら都内各地域で開催し、将来的には大規模なイベントの開催や会員ネットワークの構築を目指してまいります。

東京本社 広告三部 木下 聡文

01 大好きな推しとおさんぽ気分！
「#にっとねさんぽ」日暮里・舎人ライナーキャンペーン

〈東京本社 出版・エンタテインメント広告部 鈴木 恵 / 広告一部 甲地 正幸〉



今話題の「推し活」。推しのロケ地巡りは、ファンの間ではもはや当たり前です。そんな推し活ブームを活用し、日暮里・舎人ライナー沿線の活性化プロジェクトを実施しました。

今回、2.5次元俳優界で人気を誇る高橋健介さんと伊万里有さんをブッキングし、日暮里駅での大型ポスター展示と、3種類のオリジナル限定パンフレットの配布を行いました。

3種類のパンフレットでは全カット異なる写真を使い、満足度の高さを重視しました。公私ともに仲の良い二人の関係性がファンの間では認知されているため、カメラ目線のキメポーズ

だけではなく、二人がふざけてじゃれあっている“エモい”カットも盛り込みファン心理を突きました。大型ポスター展示は、推しと一緒に写真を撮れるファンにはたまらない空間となりました。

二人が互いに撮りあったチェキを抽選でプレゼントするTwitterキャンペーンも実施。ファンの中で瞬間に話題となり、初回のツイートは推定リーチ数37万人。Twitterには、全国各地からパンフレットのロケ地を訪れたファンの投稿が多く見られ、実行動に結びついたことが証明できました。

pick up 3種類の冊子を各駅に設置したところ、1週間で3,000部がなくなり、急遽増刷しました。



全国各地からパンフレットのロケ地を訪れたファンのツイートが相次ぎました。

02 中日新聞(岐阜版)朝刊 | 「清流の国ぎふ」の魅力を発信
新岐阜県庁舎竣工特集

〈岐阜支社 広告部 菊田 圭祐〉

2022年12月16日、3年余りの工事期間を経て新岐阜県庁舎が竣工を迎えました。56年ぶりの建て替えとなります。竣工特集実施に向けて約半年間岐阜県とのコミュニケーションを重ね、施工業者の協力も獲得。岐阜県版30段にて新庁舎お披露目広告の掲載が実現しました。これを4Pの挟み込み特集に拡大。フロント面に古田岐阜県知事のインタビュー、終面には下呂のサステナブル・ツーリズムの推進や郡上踊のユネスコ認

定などの話題をカットに盛り込み、十六銀行、大垣共立銀行など地元金融機関のお祝い広告をカット下に掲載しました。加えて、岐阜県より新庁舎の趣旨や移転計画を告知する内容にて県版記事下5段を2本、知事からの新庁舎竣工ご挨拶の内容にて半5段の出稿を獲得しました。引き続き地域のトピックスを取りあげる新聞の役割を果たせるよう、特集に取り組んで参ります。

新岐阜県庁舎竣工特集 挟み込み4ページ



中日新聞(岐阜版) 2022年12月16日朝刊



中日新聞(岐阜版) 2022年12月28日朝刊 5段



中日新聞(岐阜版) 2023年1月9日朝刊 5段

知事からの新庁舎竣工ご挨拶



中日新聞(岐阜版) 2023年1月7日朝刊 半5段

地方観光の首都圏PRには東京新聞が有効。

〈東京本社 広告二部 家田 良二（現:名古屋本社 広告一部）〉



東京新聞 2022年7月31日朝刊 15段

東京新聞LINE Digest Spot
記事体広告を配信



東京新聞LINE
アカウントメディア
お友達数124万人
(2023年1月現在)

東京新聞
TOKYO Web
特設ページ

昨秋発表された「全国旅行支援」開始直後に行った「東京新聞読者の旅行・観光についての意識調査」(J-MONITOR個別カスタム調査 2022.10.13)では、【今後国内旅行をしたい】の回答は8割を超えており、東京新聞読者の旅行行動意識の高さが強く現れました。

2022年冬、夏と好評を博した『萩・石見エリア特集』の第3弾を萩・石見空港利用拡大促進協議会様のご協力のもと、2023年1月29日に掲載しました。萩・石見エリアの文化や食を取り上げた本特集は読者からの反響も良く、羽田からの往復航空券を含む読者プレゼントにはたくさんの応募が寄せられました。

観光による地方の活性化こそがコロナ禍で落ち込んだ日本を復活させる源となります。東京新聞では今後も地方創生に取り組んでいる皆様とともに地方観光の首都圏PRを推進して参ります。

各3,000部の増刷を都内にある島根県と山口県のアンテナショップや飲食店で配布しました



東京新聞 2022年2月11日朝刊 15段×2



東京新聞 2023年1月29日朝刊 15段×2

【読者の声】 ※一部抜粋

- コロナが落ち着き、マスクも外して気兼ねなく旅行したい。(男性40代)
- ほぼ3年間旅行していないのでとりあえずどこでもいいから旅をしたい。コロナを気にすることなく気軽に旅行のできる日々が早く戻ってきてほしい。(女性60代)
- コロナ禍での外出がままならない中、ようやく「全国旅行支援」も始まり、出かける気分が高まった。(男性60代)
- 旅をすることでリフレッシュできたり、視野が広がったり。様々な体験を通して心身共に充足感が得られる。(女性40代)
- 日常生活から離れてゆっくりとした時を過ごしたり、様々な文化を体験したい。(女性50代)

「東京新聞読者の旅行・観光についての意識調査」J-MONITOR 個別カスタム調査 2022.10.13



「今後国内旅行したい」
82.3%

女性50歳以上の約9割が国内旅行への意向。
想定時期は「2023年春(3月～5月)」が4割でトップ。
日常では味わえない特別感のあるグルメを楽しむツアーなど、旅行費用が少々高くても需要があるのではと考えられます。

Topics

01 浜北中日ハウジングセンター

「家づくりセミナー+現場見学会」開催

名古屋本社 中日ハウジングセンター事務局 松井 元夢

中日新聞社直営の中日ハウジングセンターは、愛知県名古屋市内に1会場、三河地区に2会場(岡崎市、豊川市)、岐阜県内に2会場(大垣市、可児市)、静岡県浜松市に1会場、合計6会場で開催する総合住宅展示場です。総棟数112棟の住宅会社のモデルハウスを見学することができます。※2023年1月時点

浜松市の浜北中日ハウジングセンターでは、住宅購入検討層に向けての取り組みとして「家づくりセミナー+現場見学会」を企画しました。出展社のスタッフによるセミナーの後、会場付近の物件を実際に見学するというものです。案内をかけた出展社のうちヘーベルハウスと組んで12月3日に実施しました。参加者は購入

意欲も高かったうえ、家づくりのイメージをしっかりと掴めたようで、その後の商談にもスムーズに進めたと好評を得ました。2回目の実施に向けても調整中です。

中日ハウジングセンターではこの他にもホームページのリニューアルやWeb見学予約の告知強化、モデルハウス訪問のハードルを下げる「家mingDAY」の実施等、住宅購入検討層に寄り添った施策の充実に取り組んでいます。物価高等の影響で出展社、来場者ともに不安が高まっている中ですが、双方にメリットのある企画を今後も実施していきます。



テレビ画面
右特枠

各会場で様々な
勉強会を実施

中日新聞 2022年11月24日朝刊

家づくりセミナー+現場見学会



住宅メーカーによるセミナーの様子



浜北中日ハウジングセンター

ホームページを
リニューアルし
見やすくなりました。

アンケートなしで
自分のペースで
気軽にモデルハウスを
見学できます。

ホームページは
こちらから



モデルハウスフリー家mingDAY



愛知県名古屋市内に1会場、三河地区に2会場(岡崎市、豊川市)、岐阜県内に2会場(大垣市、可児市)、静岡県浜松市に1会場、合計6会場を運営しています。

Topics

02 東京新聞 1階ホールで毎月開催中

若手落語家3チームが月替わりで出演!「日比谷らくご倶楽部」

東京本社 ビジネス開発部 柴本 弥生



東京新聞 2022年3月20日朝刊

東京新聞「日比谷らくご倶楽部」
「若手(二つ目)の江戸落語家がユニットを組み、毎月替わりで登場!」

【主催】 東京新聞(中日新聞東京本社)
【日時】
2月席 2月21日(火) 出演:チーム「鈴御前」 テーマ:「家族」
3月席 3月22日(水) 出演:チーム「らくご少年」 テーマ:「大失敗」
※4月席以降の日程は特設ページで随時発表します
【開演】 午後7時(開場:午後6時30分)～午後9時
【会場】 東京新聞本社(日比谷中日ビル)1階ホール
※オンライン配信を同時開催
【入場料・定員】
会場観覧1,500円(定員・50名)
オンライン視聴券1,000円(定員200名)※価格は税込み

特設ページは
こちらから



距離が近くて臨場感があると好評

2022年4月からスタートした「日比谷らくご倶楽部」。今、落語ファンが注目する若手落語家9人が、3人ずつチームを組み出演。地元の伝統芸能を応援するために毎月開催しています。

東京新聞1階ホールで開催される高座は毎回満員御礼!会場は笑いと熱気にあふれます。ビデオ会議システム「Zoom」を使った高画質映像でのオンライン配信も人気。出演の噺家さんにチャット機能を通じて質問ができるなど、少しずつファンを増やしています。

初めての方も気楽に楽しめる落語会「ひびらく!」ご協賛皆様向けに提案するメニューも、リアル・オンラインでご用意しております。

ぜひ、一度、日比谷らくご倶楽部に足をお運びください。



東京新聞 2021年5月21日朝刊

日比谷らくご倶楽部オリジナル扇子を会場と東京新聞オフィシャルショップで販売中。
江戸川区平井の江戸扇子職人 松井宏さんが一本ずつ手作業で丹念に作った本物です。



Topics

03 東京新聞の子育てサイト【東京すくすく】4周年記念

#思わず笑っちゃう2022フォトコンテスト

東京本社 広告局 ビジネス開発部 山中裕子

東京新聞が運営する子育てサイト「東京すくすく」では、「ほっとできる時間の共有」をテーマにこれまでイベントを開催してきました。今回は、子育ての周りで起きがちな「思わず笑っちゃう」ことに注目したフォトコンテストを企画。

新聞、WEB、Instagramで募集をしたところ2,177点の応募がありました。審査員は、東京新聞・すくすくで連載中の写真家・加瀬健太郎さんとアニメーションアーティストの南家真紀子さんに依頼。編集チームも加わり、共感したり、大笑いしたりしながら入賞作、34点を選びました。

東京本社1階では「# 思わず笑っちゃう2022写真展」として

入賞作品を展示。写真展を見た人の笑顔も社会に還元しようと、来場者にはスマイルボールの投稿を、WEBサイトではスマイルボタン、Instagramではいいねでリアクションをお願いしました。スマイルアクションを集計、金額換算し、子どもが笑顔になれる社会を目指して活動する国立成育医療研究センターの「成育こどもシンクタンク」に寄付させていただきました。

写真展の来場者からは、「とても素敵な企画で見ていて思わず笑いました。」「暗いニュースばかりなのでこの写真でほっとしました。」といったコメントを多くいただきました。好評におこたえて、来年度の開催も予定しています。



東京新聞 2022年12月14日夕刊 10段

インスタ投稿+応募フォーム 2,177点の応募!
審査会や寄付状況はリアルタイムでストーリーズ投稿



「# 思わず笑っちゃう
2022写真展」
入賞作34点を
東京本社1階に展示

審査員長
加瀬健太郎さん

写真を見て思わず笑っちゃったら、会場のスマイルボールを投入、WEBサイトのスマイルボタンをクリック、Instagram投稿へのいいね

写真を見た人の笑顔を社会に還元!
スマイルアクションを金額換算し、子どもが笑顔になれる社会を目指して活動する国立成育医療研究センターの「成育こどもシンクタンク」に寄付させていただきました。

東京すくすく【公式】Instagram
@tokyo_sukusuku

216 投稿
6,643 フォロワー
12 フォロワー中

東京すくすく【公式】
東京新聞が運営する子育て情報サイト「東京すくすく」の公式アカウントです。不安だな、ちょっと遅れたかなというときにほっとしていただけるアカウントを目指しています。#東京すくすく



「成育こどもシンクタンク」に87,185円寄付

2023 MARKET IN

— 東海のナンバーワン & オンリーワン —

東海エリア2023年プロジェクト動向

「ジブリパーク」の第2期開園と「家康公」効果に期待

「ジブリパーク」の魅力がさらに充実

昨年11月1日にオープンしたジブリパークには、国内各地から多くの来園者があり、愛知県及び東海エリアの新名所として人気を呼んだ。「ジブリパークのある愛知」として、国内外に愛知県の存在を広く知らしめるとともに、訪れたいくなる愛知県のイメージを高めることに繋がった。また、海外個人向けチケットも今年1月10日から販売開始され、外国人観光客の目的地としても注目が高まっている。

昨年11月1日に第1期の3エリアが開園した「ジブリパーク」であるが、今年以降もさらに魅力は充実する。第2期エリアとして、今年の秋には「もののけの里」、来年3月には「魔女の谷」が開園を予定。また、「もののけの里」近くのア・地球博記念公園内の芝生広場には、映画『猫の恩返し』の「猫王の城」をモチーフにした遊具（迷路や滑り台など）が今年の夏までに設置される予定となっている。

ジブリパークも公園内施設であるが、他地域でも、公共の都市公園内の魅力創出の動きが目立つようになってきた。名古屋市の「鶴舞公園」には商業ゾーン「きっさこ鶴舞」が春に開業、愛知県津島市の天王川公園にも、芝生広場などのほかにスターバックスコーヒーの出店が予定され、同豊川市の「赤塚山公園」や三重県津市の「中勢グリーンパーク」でも、新たな飲食・物販ゾーンや遊びゾーン等の新設が予定されている。鶴舞公園以下のこれらの各種施設はいずれもPark-PFI制度により民間事業者が整備するもので、今後もこの事業手法による都市公園の魅力づくりが進むであろう。



ジブリパーク「もののけの里」のイメージスケッチ（愛知県長久手市）© Studio Ghibli

大河ドラマ効果で「家康公ゆかりの地」に注目

大河ドラマ「どうする家康」の放映が始まり、今年は1年間、家康公への関心が高まることになる。東海エリアでは、「家康公生誕の地 岡崎」（愛知県岡崎市）、「徳川家康公ゆかりの地 新城市」（同新城市）「徳川家康公ゆかりの地 出世の街 浜松」（静岡県浜松市）、「家康公が愛したまち静岡」（同静岡市）と、徳川家康公のゆかりを標ぼうする町が多く存在する。

岡崎市、浜松市、静岡市には、大河ドラマ館も開設されることから、全国から多くの観光客が訪れることが予想される。名古屋観光コンベンションビューローと三菱UFJリサーチ&コンサルティングによれば、「どうする家康」の放送による愛知県への経済効果は約393億円にも及ぶと試算しており、宿泊や飲食、物販、交通などへさまざまな効果に期待される。岐阜県関ケ原町

には、家康が東軍の将として戦い勝利を収めた関ケ原の戦いの地があり、岐阜関ケ原古戦場記念館を中心に1年中様々なイベントや事業などが展開される。

また、上記以外においても、大河ドラマの放映を契機に、観光誘致に結び付けようと動いている地域がある。生誕の地・岡崎と出世の地・浜松の間に位置する愛知県東三河地方では、設楽原の戦いなど家康ゆかりの地を結ぶ「三河・遠州 家康街道」を推進し、両地域間の連携による広域での周遊観光を促している。



浜松城と「どうする家康 浜松 大河ドラマ館」（静岡県浜松市）

進む名古屋の都市開発～リニア新時代への備え

今年の東海エリアのプロジェクト動向を見てみると、依然、名古屋の都心部の開発の動きが目立つ。2027年以降に予定されるリニア中央新幹線の開通を念頭に置き、開通後の需要やニーズ、社会の流れの変化を見通した都市開発プロジェクト（オフィスビル、マンション、商業、ホテルなど）が動いている。特に、名古屋駅周辺及び栄地区が盛んであり、名古屋の2大繁華街は、これまで数年も動きが盛んであったが、これから数年間でさらに様変わりしようとしている。

リニア中央新幹線開通まで、早くて4年。開通が遅れたとしても5年程度で、名古屋～品川間が40分で結ばれることになる。首都圏から中京圏、関西圏までが一体化するスーパー・メガリージョン時代が間もなく訪れるのである。その中心となる名古屋は、まさにリニア新時代への備えを万端に整えようとしている。特に大型のタワーマンションの開設の動きは依然続いているほか、これまでの名古屋でのひとつの弱点であった高級ホテルの開設がようやく始まる。今年は、栄に高級ラグジュアリーホテル「TIAD」が7月に開業を予定し、その後もヒルトンのラグジュアリーブランド「コンラッド名古屋」などの計画が発表されている。

地方都市でも、都市のリノベーションの動きは盛んだ。岐阜県岐阜市には、まちなかのど真ん中に高層マンション&商業施設の「柳ヶ瀬グラッスル35」が竣工する。岐阜市にはさらにJR岐阜駅前2本の高層ビル構想も発表されており、ますます地域のリノベーションが進む。その他の地方都市でも、岐阜県多治見市の複合商業施設「プラティ多治見」がグランドオープンを抑え、愛知県岡崎市の名鉄東岡崎駅の再開発（南口が先行）も進む。その他、愛知県江南市では、名鉄布袋駅に隣接する地区で図書館を中心とする公共施設が開設され、岐阜県中津川市でも図

書館を中心とする市民施設が誕生する。図書館機能を設けた複合施設開発の動きはここ数年東海エリアでも続いており、これらの施設にも注目される。

その他、商業施設で注目を集めるのが愛知県豊川市に開業する「イオンモール豊川」である。イオンモールはこの直近でも岐阜県土岐市や愛知県長久手市に出店しているが、愛知県東部の東三河地方には初出店となり、東三河エリアの商業マップを大きく塗り替えるであろう。また、静岡県静岡市では、既存の人気商業施設「エスパルスドリームプラザ」に新規施設が増設され、清水港界隈の活性化の役割を担う。



岐阜市の中心部に位置する「柳ヶ瀬グラッスル35」（岐阜県岐阜市）

道路、鉄道の動き

東海エリアの高速道路ネットワークは、ほぼ拡充されており、2023年度中に全線開通が予定される「新名神高速道路」と2026年度中に全線開通が予定される「東海環状自動車道」の整備により、強固な高速道路ネットワークが構築される。さらに、各地ではスマートICの開設の動きがあり、今以上の交通利便性向上が見込まれる。

そうした道路整備を見据えて、名古屋周辺で大型の物流拠点の開設の動きもある。三重県桑名市には、カインズ向け専用物流施設「アイミッションズパーク桑名」、名古屋市内には「ロジポー

ト名古屋」など、道路環境整備を活かした開設が進む。鉄道では、名古屋鉄道が知立駅を一部高架化するとともに、2023年度末に、河和線に新駅「加木屋中ノ池」駅を新設する。

国際級イベント・会合の開催

イベントでは、昨年12年ぶりに日本で開催され話題を呼んだFIA世界ラリー選手権「ラリージャパン」が、今年も豊田市などで11月に開催されることが決まった。自治体が主催者となる同レースは国内初であり、地域活性化にも期待される。

三重県志摩市では、広島市でのG7先進国首脳会議に合わせ「G7三重・伊勢志摩交通大臣会合」が開催される。志摩市では2016年にG7を開催した実績もあり、本会合の開催によって、さらに国際MICEの開催地としての知名度も高まるであろう。また、9月には愛知県で「日台観光サミット」の開催が決定し、インバウンド復活の機運に拍車をかけることに期待される。

田中 三文

たなか みつふみ

旅人総研 代表/

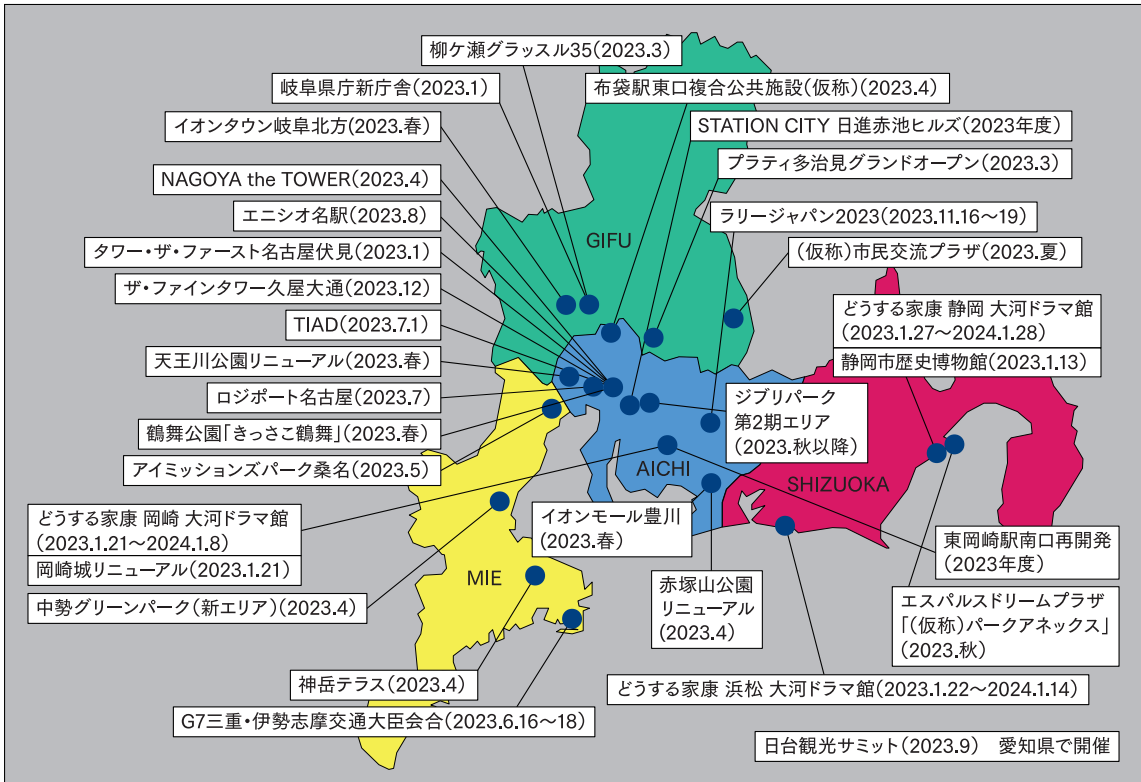
愛知大学 地域政策学部

非常勤講師



2023年 東海エリアの主なプロジェクト

（ ）内は竣工・開業・開催予定年月



出典：各種資料より筆者作成



機関誌『愛農』を手にする坪井涼子さん。もともと農業に対して漠然としたイメージしかもっていなかったという。

農業を通じて学んだ生き方

近鉄大阪線から伊賀の城下町方面へ乗り換える伊賀神戸駅のひとつ手前、青山町駅から15分ほど歩いた小高い丘に、単独では全国唯一という私立の農業高校、愛農学園はある。1学年20人ほどの小さな全寮制の学校で、2年生から養豚、養鶏、酪農、果樹、野菜、作物の部門にわかれて実習をおこなう。希望者は4年目に農家に住み込む制度もある。

ユニークな教育方法が評価され、2022年度 グッドデザイン・ベスト100に選ばれた。学校教育プログラムの受賞は今回がはじめて。「戦争が終わった1945年、食料不足をなんとかしなくてはとの思いからできた集まりが原点です」

と高校の母体である公益社団法人全国愛農会の坪井涼子さんは言う。会の創始者で、1964(昭和39)年に初代校長となる小谷純一さん(1910-2004)には、「都会が花だとすれば、田舎は根っこだ。根っこがなければ植物は枯れてしまう」との信念があった。しかし、時は高度経済成長の真っただ中。労働力として農村から都会に若者が送り込まれ、農業がほかの産業に比べて評価されない傾向は、なんだかんだと近年までつづいた。

「なかなか生徒さんが集まらず、2次募集、3次募集をかけていました。ようやくここにきて、応募人数が受験者数を上回るようになりました。時代の変化のなか、人の生命を支える農業という職業に関心をもつ人が増えているのかもしれない」

子どものころから環境問題に興味をもった坪井さんは「このままでは地球は滅びる」と思い詰め、生きづらさを感じていた。社会学を学べば答えが見つかるかもしれないと進学した大学の入学式で、校舎脇の植え込みを作業衣姿で耕す人を見かける。その人が恩師となる教授だった。「『お前らは生き物としてビチビチ生きているか』と先生は学生に問いかけてきました。こんなに楽しそうに生きている

大人が世の中にはいるんだと驚き、それまでの常識が壊されました」

社会学とはいっても田畑を耕し、作物を育てる型破りな授業で、なにもない山でキャンプ生活をしてサバイバルもした。それでも答えは見つからず、なにをしたいかがわからない。就職活動をしないう坪井さんを見かねた教授は、世界から学生を集めて農業指導者を育成する専門学校でボランティアをしないかと導く。「わかっていないまま就職するのが不安で、1年間、そこで過ごしました。インド、フィリピン、ミャンマーなどの学生と学び、はじめて有機農業を知りました」

次いでアジア各国の農民団体を組織するNGOの仕事でフィリピンに滞在し、日本の代表としてきた愛農の関係者とも知り合う。それが縁で2005年から伊賀に移り住んでおもに機関誌の編集に携わり、誌面では卒業生のその後も紹介する。同級生同士で結婚してミカン農家になった夫婦、就農せずに介護の仕事をする人などさまざま。「大地から恵みを受けて生きること、農家の人たちは愛とはなにかを直感として理解しています。だからなにかあっても揺るがず、どっしり構えていられる。それはとても格好いい生き方だと思います」

前提を間違えれば、結果も間違える。現代社会が陥りがちなこのパラドックスを、坪井さんは命の循環である農業を通じて学んだ。



インドネシアでボランティア中の坪井さん(中央)と、恩師の故・矢谷慈國教授(右隣)。写真は坪井さん提供。

ナゴヤ愛はどこにある?

第12回

不登校だって、何も困らない

2022年8月に出版されるなり話題となった、ある本の中に登場する人々——宮本亜門さん、サヘル・ローズさん、内田樹さん、キンタロー。さんに共通する事とは何でしょうか?意外にも、全員が「不登校」の経験者。

この本『マンガで読む 学校に行きたくない君へ』を描いたのは、自身も不登校経験のある漫画家・棚園正一さんです。

小・中学時代を不登校で過ごした棚園さん。中1のときに、不登校児の支援者によって、地元・清須市に住む漫画家・鳥山明さんと会うことができ



▲漫画空間のオーナー・内藤さんと一緒に

しました。自作の絵を見てもらい「不登校でも漫画家になれますか?」と質問。当時の棚園さんにとっては「生きるか死ぬか」という程の大事な問いでした。鳥山先生の「なれると思うよ。不登校で困るのは、学園漫画を描くときくらいかな」という答えで、背中がすうっと軽くなったといいます。

そこから本気で漫画家を目指し、14歳で漫画新人賞の最終選考に入り、担当編集がつきました。「スゴイ!」と思わず叫ぶ筆者。「全然スゴくないですよ」棚園さんいわく、担当がつくと連載できるのでは、天と地ほどの差があるのだとか。

その後、大きな賞に2度入賞し、読み切りは掲載されても、連載は遠いまま。1年かけて描いた原稿が何度もボツになったり、イラストの仕事をした相手からお金をもらい損ねたりと、なかなかうまく行きませんでした。

棚園さんが初めて連載を持ったのは32歳のとき。担当編集がついて18年後のことでした。

そのきっかけが、この日お話を伺った大須(名古屋市の)漫画空間さん。全国的にも珍しい「漫画を描くための空間」です。当時、同店を舞台に40分間のテレビ番組の制作が決定。番組は同店の常連である棚園さん視点で作られ、不登校についても話しました。番組を見た担当編集者から「不登校をテーマに漫画を描いては」と提案され『学校へ行けない僕と9人の先生』

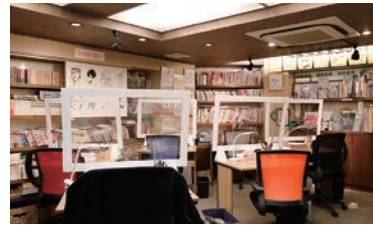


▲担当編集から連載までこんなに距離が?



の連載を開始します。

連載当初は「不登校の漫画なんて読まれるのだろうか」と懐疑的だったそうです。予想に反して多くの反響があり、単行本化、のちにフランスでも



▲今も週に何日かは、ここで漫画を描くという

出版。さらに数年後に話題となり大量重版が決まり、続編『学校へ行けなかった僕と9人の友だち』も発売。今回の本は、棚園さんの不登校漫画3冊目です。「この本の構想は、続編が出た後に考えていたけど、別の出版社では企画が通らなかったんです。ポプラ社から、僕の構想と全く同じ内容の話が来て驚きました」

不登校漫画以外にも、地元名古屋や「病院訪問教育」がテーマの漫画を出版。現在は漫画家だけにとどまらず、不登校に関する講演を月に数回行い、専門学校の講師や児童文学賞の審査員など、活動の幅を広げています。

「今まで多くの人に支えられてここまで来たので、少しでも世の中に恩返ししたい。恩返しできる場所があるのが、ありがたい」と棚園さん。

今では「学校に行けるほうがいいには違いないけれど、行けなかったことで、困ったことは何もない」と言い切ります。「学園漫画も問題なく描けますよ」棚園さんの悩んだ過去と現在は、今を生きる不登校児へのエールなのです。



▲悩んだ過去も無駄じゃない

(写真撮影:宮田雄平)



イラストレーター&文筆家&漫画家
陽菜 ひよ子 Hina Hiyoko

愛知県清須市生まれ。3歳より名古屋市在住。関西に2年、関東に14年住んだのちUターン。2006年『やさしい写仏めり絵帖』(ダイヤモンド社)、2015年『アトピーの夫と暮らしています』(PHP研究所)を出版。イラスト実績はNHKテレビ番組・書籍・広告・新聞小説・自治体・イラスト講師など多数。



好評発売中!
『ナゴヤ愛 地元民も知らないスゴイ魅力』(秀和システム)

中日新聞・東京新聞 新聞広告受付締切スケジュール

広告原稿の入稿サイズにつきましてはホームページ内の「中日新聞グループPDF広告制作ガイド」をご確認ください。

締切	4月分	5月分	6月分
第1次 前々月 20日	2/20(月)	3/20(月)	4/20(木)
第2次 前月 10日	3/10(金)	4/10(月)	5/10(水)
第3次 前月 20日	3/20(月)	4/20(木)	5/19(金)
特定面 前月 5日	3/ 3(金)	4/ 5(水)	5/ 2(火)

※当該日が土日祝の場合は繰り上げた営業日となります。